

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212U401	老年看護学実習 (Clinical Practice of Gerontological Nursing)	専門教育科目 老年看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	担当教員
必修	4	4	前	三重野英子・小野光美・阿部世史美 内線：5093 E-mail：eikomi@

【授業の概要・到達目標】

老年看護学および関連諸科学の講義・演習で学んだ知識を基盤として、高齢者が健康を維持・回復・増進し、その人らしくよりよく生き・生活できるよう個別的看護を展開するための基礎的能力を養う。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 高齢者個人によって加齢過程は異なり、健康状態も個別的で多様であることを述べる。	○		○				
2. 高齢者の健康状態および生活障害・潜在能力をとらえ、必要な看護を科学的に実施する。	○	○	○	○			
3. 高齢者を含めた家族全体をとらえる中で、家族に対する看護の必要性を述べる。	○		○				
4. 高齢者・家族を取り巻くケアシステムを理解し、その中での看護の役割と機能を述べる。		○			○		
5. “人生の先輩としての個人”を尊重する態度、豊かな老年観と専門職としての倫理観を醸成させ、老年看護の本質を述べる。						○	○

【授業の内容】

- ・実習場所は、病院、特別養護老人ホームのいずれか1施設。
- ・実習1～3週目、入所/入院されているクライアントを1名受け持ち、看護過程を使って看護を展開する。
- ・居宅介護支援事業所での介護支援専門員との同行訪問、あるいは病院の退院支援調整担当者（医療ソーシャルワーカー等）との事例検討により、地域包括ケアシステムの実態を学ぶ。
- ・実習4週目、学内にて臨地での学びを事例検討会やケースレポート作成を通して深める。

【アクティブラーニング（D：知識の活用・創造）において学生がより深く学ぶための工夫】

- ・実習場所は、学生が自己の課題に基づき1施設を選択し、その後、学生間で調整し決定する。
- ・実習前、学生が主体的に実習に向けて準備できるようオリエンテーションを行う。
- ・実習1～3週目、毎日カンファレンスを行い、実践課題や解決策について討議し、翌日の実習に活かす。
- ・実習4週目、グループ演習、事例検討会、ケースレポートを通じて老年看護の本質を探究する。

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	自分自身の実習課題を明確にし、指定された期日までにレポート提出する。老年看護学の授業資料や教科書等を用い知識・技術の復習を行う。(1h/日)
事後学修	毎日、実習を振り返り、看護実践の評価や疑問を実習記録として記述する。また、翌日の看護実践に向けて、看護計画の立案および知識・技術の学修を行う。(1h/日)

【教科書】

- ・北川公子著者代表（2022）：系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学(第9版)、医学書院。
- ・「老年看護学コアノート」をはじめ老年看護学に関する授業資料

【参考書】

- ・水谷信子他監修、三重野英子他編集（2024）：最新老年看護学（第4版）、日本看護協会出版会。

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5
看護過程の評価	80%	○	○	○	○	○
実習意欲・態度の評価	20%	○	○	○	○	○

【注意事項】 補習実習は原則として行わない。

【備考】 大学の感染対策方針に基づき、実習内容を変更する場合がある。

実習1週間前から実習期間中、健康管理に十分に留意する。

担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験	三重野（看護師）、小野・阿部（看護師、保健師）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者	看護師、医師、介護職、理学療法士、介護支援専門員等	
実務経験をいかした教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が施設や病院で高齢者を担当し個別看護の実習を行う中、教員は看護経験をいかした看護実践の意味づけや看護学修への動機づけを図る。臨地の指導者は、学生が高齢者の健康回復・維持にむけ適切に実践できるよう支援・指導する。 	
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> ・面接授業 	